

九州ブロック

1.プログラム詳細

10月6日(月)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(佐賀県)
10:40～11:40	60	講演① 「交通ボランティアの育成と活性化」 村山敏夫(国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部 工学科 人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専 修)
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 「子どもの交通安全と事故防止～子どもへの効果的な学習方 法を考える～」 奥山 祐輔(黒井産業株式会社黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 GM/東北公益文科大学サステナブル・モビ リティ研究所外部研究員)
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	40	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評(コーディネーター) 村山敏夫(国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部 工学科 人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専 修)
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

2.講義等の記録

■講演①

国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科
人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修

村山 敏夫

「交通ボランティアの育成と活性化について」

※42 ページの東北ブロックでの講演録参照

■講演②

黒井産業株式会社黒井交通教育センターKURO-TEC 本部 GM

東北公益文科大学サステナブル・モビリティ研究所外部研究員

奥山 祐輔

「子どもの交通安全と事故防止～子どもへの効果的な学習方法を考える～」

※69 ページの関東・甲信越ブロックでの講演録参照

■活動事例発表

佐賀県地域婦人会交通安全母の会 会員

光武 マサ子

今ご紹介していただきました佐賀の光武と申します。佐賀へどうぞおいでくださいましてありがとうございます。もう沖縄の方などは翌日からお見えいただいたということで、本当に遠いところ、我が佐賀県に来ていただきまして、ありがとうございました。

ところが、皆さんご存じのように、佐賀県地域婦人会交通安全母の会の私は会員でございます。あとの方でいろいろお話いたしますけれど、資料がありませんねって言われました。ありませんというのは、私は本当にここに立つのが理事さんとか会長さんとかと思って見ておりました、ほんのちょっとした動きをここに取り上げて、どうしてもと会長さんがおっしゃったので、ここに立たせていただいています。

だから、眠られても結構ですので、はい、私もこういうふうにしておりますけれど、婦人会員としてはもう 50 年近く入っております。

ただし、勤めているときはですね、ただの会員でした。やめてから改めて考え直して何かなってというので、今やっていることをお話しさせていただきます。今では先ほど言いましたように、本当の個人会員です。

数 10 年前、私は退職いたしました。皆さんもそうだと思います。待っていましたとばかりに婦人会が来ました。ボランティア先から来ました。お寺が来ました。地域に来ました。すべて、それも役員というのですね、来ましたけれど、本当にそれはいいことを教えていただきました。だから今ですね、そこで感謝していることが多いのです。一つ一つがですね、今でも心に残って生かしておりますけれど、その一つに交通安全母の会というのは、思い出した時には婦人会もございましたので、朝のあいさつ運動、それから横断歩道での見守り、冷茶接待、紙芝居での交通講話、高齢者との歩き方、小学校での信号の渡り方、運転手さんへの小物のプレゼント、警察の方からの交通講話、母から地域の横断歩道を知ろうというので、役員みんなでその場所に行ったりもしました。そこで私も交通安全というそういうおこがましい考えはなくて、ただ子供たちと横断歩道を渡って一緒に歩こうという思いで始めたのです。

私にも子供が 3 人おります。私は務めておりましたので、その間は地域の方の婦人会の方や地域の役員さん方のおかげで、交通指導を受けながら毎日登校ができたこと本当に感謝しております。一回の事故もなく、大変わがままな息子たちでしたけれど、まあまあ行ったり来たりしたなと思って、それをみんな地域の方々のおかげであろうと感謝しております。

そこですね、今私がしているのは、子供たちの集まる集合場所、横断歩道のところですね。ほんの数分間の間に 200 台以上の車が通り抜けます。月曜は特にトラックが多いです。だから子供たちには一歩でも前に出ると危ないよねというふうにお話がありましたけれど、ついついこっちの方で言うてしまうことが多かったようですけれど、そういうのをした中で、例えばですね、横断歩道を渡る時もやっぱり信号じゃなくて、横を向いていますね。

そこはやっぱり危ないからそうしているなという気は持っております。そういうこともあります。それからまた渡り終えたら、やっぱりこう頭を下げてくれる子が多いです。これも誰かから教えていただいたので、私たちも海の方ですね、ありがとうという言葉とか、頭を下げるというのは下がいいよねっていうのはあったので、いつの間にか子供たちにも伝わっていたかなと思います。

それから車が通るから、車道から離れた方を歩きましょうねとか、それからうちの学校は帽子をかぶっています。だから早足でとか行くと帽子が飛んでしまいますので、慌てて取ったら絶対だめよっていうのは言っ

ております。それからつい並んで話していきます。リーダーさんは1年生が遅れているよと言うとおいでって後ろ向いて言ってくれたりもしてくれていますので、そこらへんはいいかなと思って見ております。子供って正直ですよ。家の中のことを話してくれます。何も聞いてないですよ。

そういうこともありますし、ソフトバンクの応援に行ってきたとか、勝って嬉しかった。おばちゃんもソフトバンクの応援しようとかそういうことも言っています。運動会では優勝したよとか言います。

どうこう話をしながら、信号から信号まで歩いています。ところが、さっき言われましたね、下を向いております。しっかり手を握りながら、学校って楽しいな、楽しくない、体育が嫌いみたいな話を本当にいいのかな？と思うようなことを言いながら、でも手を握りながら学校に行くと、走っていきます。さっきまで友達いないとか学校楽しくないとか話していたのに、やっぱり学校に行ったら喜んでくれるのだと思っております。

ところがですね、帰り道が3.5キロもあります。行く時はすごい勢いで楽しかった。帰り一人、寂しいなど言いながら帰っております。でもですね、そういう時に地域の方が声をかけてくださり、朝見回りに来る青色パトロールっていうのがあるので、ご苦労さんと言っていただくことが多いです。それで私の何かフツとするようなこともあります。また、中学生や高校生や地域の方々からもありがとうございますって。まだ元気で頑張ってるって言う時、いつまで頑張れるのかなと思ったりもしますが、25年間毎朝続けています。本当に嘘ではありません。25年間の本当に顔なじみのおかげだと思っております。皆さんもボランティアだからご存じだと思いますが、できる人ができる時にできること、この気持ちだけでやっておりますので、しんどいとかそういうことを思ったことはありません。とにかく子供といるのが楽しいなって。子供たちを送って、会議が終わったその後ですね、私事ですけれど、昼からは母に弁当を届けて、そのまま佐賀にいる孫もおり、18年間通いました。

それもですね、車に乗らないから電車にお世話になりました。でもそれがいけたのも婦人会の役員さんや、それからボランティアの皆さんがいいよと言ってくくださったからで、その18年間は副会長をずっとさせていただきましたが、終わったら待っていましたとばかりに次の職が来ましたが、これも今までお世話になったおかげだなと思って受けさせてもらっております。

そのおかげで病院のお世話になることもなく過ごせているので、もうちょっと頑張っていきたいと思います。あまり大した話でもありませんでしたが、お帰りには佐賀の良いところをよく見てください。そして、婦人会の役員が今後もどんどんどんどん続くことを願っております。

本当に今日は拙い話ですが、ありがとうございました。

沖縄県交通安全母の会連絡協議会 理事

勅使川原 雅江

こんにちは。令和7年度沖縄県交通安全母の会活動報告をいたします。私、沖縄県母の会理事をしております。恩納村母の会の会長をしております勅使川原と申します。よろしくお願いたします。で、画面の操作は本部長の会長の山城幸枝がいたします。そして証拠写真を撮ってくださる山城と申します。三名で今回は参加しております。よろしくお願いたします。沖縄県交通安全母の会といたしましては、日本一交通安全の県を目指すということを目指し、交通安全は我が家からを活動の指針に、人命は全てに優先するという基本理念のもと、母親の立場から交通安全思想の普及高揚と、家庭や職場などの地域実情に即した交通安全対策を推進しております。

沖縄県では、現在24市町村の母の会で構成され、沖縄県警察署、交通安全協会、関係団体と一体となり県民一人一人が思いやりと譲り合いの心を持って、交通ルールの尊厳と正しい交通マナーの実践を習

慣づけることにより、日本一交通安全な県を目指し、交通安全運動を展開し、明るい社会の実現に寄与することを目的に活動しているボランティア団体です。年間活動といたしましては、春の交通安全出発式から始まり、各市町村進入路進入児童にたいし、交通安全指導及び新 1 年生への手作りの交通安全お守りの贈呈、飲酒運転根絶県民運動、夏秋、年末年始、交通安全県民運動、九州ブロック交通安全等ボランティア講習会、交通安全県内一斉キャンペーン、これは 6 地区で同時に開催しておりますなどの活動をしています。春の交通安全出発式では新入児童による演舞や新 1 年生へのランドセルカバーや交通安全の腕章の贈呈式も行われました。4 月には各市町村においても交通安全指導として正しい横断歩道の渡り方や警察署、安全協会、母の会と共同で、新 1 年生への交通安全指導と会員手作りのお守りの贈呈式も行っております。お守りを受け取る時の子供たちの嬉しそうな顔を見ると、大変だけど、作ってよかったなとこちらも嬉しくなります。私の住む恩納村では、交通安全推進協議会から来て、全国交通安全指導に伴う街頭指導割り当て表が各行政区の母の会に届き、村内各校の校門前で立証ボランティアを行っております。立証活動は当番ではなくても毎日行っております。また、毎年 5 月 4 日にはゴーヤーの日ということで、交通事故防止ゴーヤー作戦と銘打ち、おんなの駅に行って恩納村更生保護女性会の手作りのゴーヤージュースを配りながら交通事故防止の啓発活動を行っております。

沖縄県母の会が一番力を入れている活動が沖縄県交通安全母の会交通安全県内一斉キャンペーンです。毎年 10 月 30 日に県内 6 地区同時開催で各地区の警察署にご協力のもと、交通安全啓蒙啓発活動を行っております。各地区の交通量の多い交差点において、のぼりや横断幕を掲げ、ドライバーの皆さんに交通安全や飲酒運転根絶をアイキャッチで訴えています。

ドライバーの方は、にっこり笑ってくれる人、完全無視する人などいろいろな人がいますが、窓を開け頑張ってくださいねと声をかけてくれる人もいますので、頑張れます。年末年始、飲酒の機会が増える時期に、各市町村の母の会がそれぞれ飲酒運転根絶を目指し活動しています。

課題といたしましては、沖縄県は車社会で悲惨な事故が後を絶ちません。また、飲酒運転検挙率の割合は毎年全国ワーストを記録しています。子どもや女性が巻き込まれる事故も後を絶たない状況になっており、更なる安全な街づくりや交通安全推進の啓発普及の 1 層の充実強化の推進を図らなければなりません。会員減少による人員不足や財政事情、高齢者運転事故の予防と対策、交通安全、飲酒運転に無関心者への啓発等、この他にも課題はたくさんあると思いますが、会員の皆さんと力を合わせて、家族や身近な人達を交通事故から守る活動を続けていきたいと思っております。これで沖縄県活動報告を終わります。ありがとうございました。

熊本県交通安全母の会 理事

甲斐 きみ子

熊本県から参りました甲斐と申します。今日は心強いうちの事務局長がついてきてくれましたので、心置きなくできると思います。どうぞよろしく願いいたします。それでは、熊本県交通安全の会の活動事例を发表したいと思っております。

まず、子ども自転車教室ですが、熊本県交通安全母の会が年間 4 箇所ないし 3 箇所を指定して実施しているもので、小学校単位で開催し、子どもの頃から正しい交通安全マナーなどを学ぶだけでなく、実際自転車の操作を通して技術的な側面からも子どもが自らの安全を守れるようにすることを目的としています。これは私のところ小学校の児童数は少ないのですが、自転車を持っている子が来て、交通安全指導員、警

察、それから老人クラブ、婦人、交通安全母の会とか学校と一緒に乗り方の実習をしているところです。ここはまた違う学校でありまして、ここは先ほど先生たちもおっしゃいましたように、段ボールは壁のところでございます。この壁を見て、右左右を確かめて渡るように指導しているところです。雨の日は残念ながら体育館にて交通指導員の方からお話を伺っていました。私は基本的に 3、4 年生を対象にしております。と言いますのは、1 年生は自転車に乗ることができません。3 年生から部活動が少しずつ始まりますので、3 年生から 4 年生を中心にこの自転車の乗り方をしております。この自転車の乗り方は警察の方もお見えになっているいろいろありますが、満点の子は一人もおりません。ほとんどですね。この時は、先ほど先生がおっしゃったように、交通安全法令もいろいろ入りますけれども、そこのところはまだなくて、ただ、自転車のこの自転車の乗り方を勉強させるというのが目的です。事故に遭わないように、また、私たちのところは国道 3 号線と 57 号線をまたいでおりますので、57 号線は三隅方面へ行く道、天草へ行く道で車が非常に多いところです。それで、事故防止のために子供たちの安全な乗り方を学んでいます。また学校では校区外は禁止されております。乗るのは自分とこの近くだけということで、子供たちはしておりますが、最近では子供たちの姿があんまり見えません。少子化時代になりまして、本当に学校が少なくて、私たちの地域でも年間 100 人人口が減っております。そのために子供たちがほとんど自転車に乗った姿を見ることは最近なくなりました。

春の交通安全フェアです。これは私どものところに大きなスーパーマーケットがあります。そこに熊本県のキャラクター「ゆっぴー」君と「うとん行長しゃん」が行きました。こどもたちに実際に体験してもらうところ。ボタンを押して止める動作のところ。

夏の交通安全キャンペーンを行いました。啓発グッズを指導員の方と一緒に詰め込み作業を行いました。今年は猛暑のため宇土市役所のロビーで啓発活動を行いました。地震で倒れた市役所ですが、新しく建て直して 2 年目になります。すごく広々としたロビーで啓発活動を行いました。

飲酒運転撲滅運動ですが毎年、春と秋の全国交通安全運動や年末年始の事故防止運動に合わせて、「飲酒運転撲滅」をスローガンに、いろいろな団体と協力して飲酒運転撲滅キャンペーンを実施しております。

みなさんもご存じのとおり「ハンドルキーパー」運動ですが、このステッカーを持っていろいろなお店に行つてこの運動の協力してもらえようをお願いしております。

交通事故死 0 を目指す日として、ドライバーへのタッチ運動や「うとん行長しゃん」などいろいろな団体と協力して行いました。このように集まりまして、警察の方からの指導をしてもらいました。

交通事故のぼり旗の設置として各地区の交通安全協会等と協力して、のぼり旗の設置を行いました。

白線引き運動は毎年 2 月から 3 月にかけて住宅の出入りに白線引きを行っております。ペンキ、ローラーは宇土市環境交通課よりいただいております。この活動はもう 50 年以上続いていて、熊本県でも宇土市だけしか行っておりません。皆様方のところはどうでしょう。このように白線引きをしていますか。ほうきできれいに叩いてその上にこのペンキをしないときれいに塗れませんので、このように塗っております。これはやっぱり 1 日ばかりで大変な仕事になります。これは私の住んでいるとこなんですが、この側溝の溝のところに車が落ちてすごい音がしました。なかなか知らない人は見るのが大変だったのだと思いますが、これに車が落ちて大変な思いしましたので、村の区長さんと相談しまして、ここに引いてからはすごく夜も白線は見えますね。だからいいなと思ってずっと引いております。

上天草市の春の交通安全運動の様子ですがけれども、「もっこすファイヤー」と言って熊本市にタレントさんがおります。その方たちが上天草市の 1 日署長さんになってこられた写真で、あとパトカーと白バイの方たちの出発式の様子の写真をいただきました。

ここからは、各郡市から2つほど事例発表いただきましたので発表します。ここは阿蘇郡小国町交通安全母の会の活動ですが杖立温泉をご存知ですね。ここはですね、すごいことに週3日登下校時の見守り活動をしてローテーションを組んでね、3人ぐらいずつ皆さん学校まで送って行って、また素晴らしいことに私たちは朝見守りで子供たちを送っていきますけれども、帰りは絶対迎えに行くことは皆さんできないですよ。ここは下校時もちゃんとお迎えに行って、週3日ローテーションを組んで送り届けるっていう役がされているので、ここだけ私たちは見習わなきゃいけないかな、素晴らしいなと思っておりますが、ここまでなにで行きますかって言ったら、歩いて行くのはちょっと大変なので、それでどなたかが車に乗せて行かれて、学校まで行って、あとは子供たちと歩いて、その方帰られて、他の方は子供たち歩いてずっと帰るといシステムになっているので、素晴らしい活動だと私は思います。

ここは球磨郡交通安全協会、球磨郡は人吉になります。何年か前に水害がありました人吉ですが、交通安全の会はビーチボール大会をするそうです。で、7校区から2チームずつ参加して年一回。これは夜ですか会員さんが集まらないので、夕方6時から始めて各町長様という方は7時から各町長様方と警察関係で御臨席いただいて、交通講話の中に交通安全宣言があります。

皆様方も春の交通安全と秋の交通安全には必ず交通安全宣言があると思いますので、ここはそれをされているそうです。保育園児と一緒に警察署で七夕の集いを行い、たくさん短冊を作ったということでした。また、くまモンをご存知ですかね？くまモンのバッチはめてきておりますけど、くまモンが登場してまたヘリコプターを飛んだそうですので、手を振ってみんなでお喜びでしたという文書をいただきましたので、付け加えさせていただきます。

おわりに子供や高齢者、そして自分自身を交通事故から守るため、「交通安全は家庭から」という合言葉のもと、熊本県交通安全母の会、宇土市交通安全母の会はそれぞれの家庭のみならず、地域の母として、今後も交通安全の普及啓発活動を実施していきたいと思っております。

御清聴ありがとうございました。

鹿児島県交通安全母の会連絡協議会いちき串木野市交通安全母の会 会長

塩屋 かよ子

皆さん、こんにちは。私は鹿児島県いちき串木野市交通安全母の会の会長塩屋と申します。本日は、鹿児島県交通安全母の会を代表いたしまして、本市のいちき串木野市の活動を発表させていただきます。このような発表の機会を与您いただきましてありがとうございます。本日は、鹿児島県の交通安全会長の大迫さんと、昨年ここで発表していただきました鶴さんと新幹線で珍道中やっまいりました。どうぞよろしく願います。それでは最初に私の住むいちき串木野市を少し紹介させていただきます。

いちき串木野市は鹿児島県の本土西部に位置する市です。9市町と串木野市が合併し、今年で20周年を迎えました。薩摩あげやこの画面にありましたようにスポーツ強豪校の神村学園があることでも知られております。そしてまた日本で一番長い市の名前だということでも知られております本市のいちき串木野市をローマ字で表しますと、6回「i」が出てきました。そういうことから、愛がいっぱい、愛あふれるまちということで呼ばれております。いちき串木野市は、かつては金山と言われ、遠洋まぐろ漁業、そして婦人会のまちとも言われていました。

以前は婦人会員数が6000人を超え、活動がとても盛んだったと当時の会員の先輩方から当時の様子をよく聞かされておりました。婦人会活動は今でも女性連活動と名前は変わりましたが、先輩方が築いてこら

れた歴史は古く、今でも脈々と次世代へ引き継がれております。

いちき串木野市女性連は、一つは交通安全の会、それから日本赤十字奉仕団の活動、結核成人病予防婦人会、この 3 つを基本に活動しています。この 3 つの活動は全て女性連の会員が担っております。活動の中でも年間を通して活動しているのが交通安全の会の活動です。

まず初めに、毎年 3 月になると、新入生の入学式に間に合うようにと会員みんなで材料を持ち寄り、かわいい交通安全のお守りを作ります。可愛い柄の紙を選び、子どもたちが歩いたり走ったりするとすぐわかるようにと鈴をつけたり工夫をしております。これは交通安全教育の一環として、交通ルールをしっかり守り、事故に遭わないように毎日元気に学校へ登校してもらえるようにとの思いを込めて、入学式の日各小学校長から贈呈しております。

左が手作りのお守りです。で、右が小学校の入学式で、新入生に手渡しをしてくれている校長先生です。この学校はとってもちよつと山の方にありまして、今年もその年の入学生が 1 名と妹が一人ってことで、新聞にも載せていただいて、市の広報でも載せていただいた記事です。

また、校長先生が子どもの目線に立ってですね、うんとしゃがんでいただいて手渡ししているのが何かいいなっていうことで載せさせていただきました。ありがとうございます。次に、春の交通安全運動では、登校時の子どもたちの見守りのために、市内の通学路に市職員、PTA、交通安全協会、警察署、交通安全の会など、総出でのぼり旗を持って啓発をいたします。

登校中の子どもたちは、初めは恥ずかしそうにしておりますが、今では自分たちから元気に大きな声でおはようございますとあいさつが言えるようになり、こちらは大変うれしくなります。これが交通安全の様子です。次に夏の交通安全運動としては、目覚まし作戦といたしまして、暑い中居眠りをしないように気をつけて運転してくださいと声をかけながら、居眠り運転防止で目が覚めるようにヤクルトを配り、そしてまた運転の先の見通しが良いようにと願をかけて竹輪を配ります。

そうですね、遠くが見えるように警察から一旦停止させられた運転手は、最初はびっくりしましたが、配られたヤクルトを喜んで受け取って飲んでおります。のぼり旗を持って、国道 3 号線沿いに約 100 人以上の方が参加して活動する姿は、ピンクのビブスピンクの T シャツにピンクののぼり旗という風になびく光景はとても圧巻です。今日は私もいちき串木野市の普段活動しているピンクの T シャツとピンクのビブスを着てきました。どうですか？お似合いですか？

最後になりますが、私たちは年間を通して市内の小学生に交通標語を書いてもらい、この鶴も提供していただいたのですが、鶴をあしらった交通安全お守りを各事業所や店舗、庁舎のロビーなどに設置してご自由にお取りくださってというメッセージを添えて設置しております。

子どもたちの素直な気持ちが書かれており、中には「スマホを見るなら一旦停止」とか、「ゆっくり運転をありがとう」とか、「スマホ見ないで僕を見て」などと大人がドキッとするような標語もあり、考えさせられます。会員一丸となって頑張っ制作に取り組んでおります。

これを 100 均にある棚ですけど、100 均で買って、それに下げてですね、ご自由にお取りくださってメッセージを添えて飾っております。

このようにスタンドに下げて活動しております。また、毎月 1 日と 20 日は交通安全の日と設定し、私の方で設定していますが、年間を通して交通広報車に乗っての声掛けを、登校時の子どもたちに元気よくおはようございます。車に気をつけて行ってらっしゃいとあいさつ運動も兼ねて同時に行っております。

最後にまとめといたしまして、いろいろ活動をしてきましたが、成果といたしましては、一つ、交通啓発活動

が年間を通してできたこと、一つ、交通安全の会活動を通して他団体との連携が深まったこと、そして交通安全母の会の会員の絆が深まったこと。

課題といたしましては、交通安全花会の会員が高齢化していること。もう一つ、会員不足で次世代への引き継ぎが難しい面がある。最後に活動がマンネリ化しているのではないかなどが考えられます。課題は残りますが、これまで他団体のご協力のおかげで活動を続けてこられた感謝と、これからも一人一人が安全運転に心がけ、交通事故 0 を目指して 1 点の事故も出さないように市民の皆様に引き続き声かけをしていきたいと思ひます。最後までご清聴ありがとうございました。

北九州市婦人会連絡協議会 交通安全母の会 事務局長

太田 康子

皆さん、こんにちは。福岡県北九州市から参りましたヨシオくと今日は一緒に来ておりますので、後ほどよしくんを紹介させていただきたいと思ひます。

北九州市をご紹介したいと思ひます。本州と九州をつなぐ玄関口になっておりまして、関門国道トンネル 1 日約 2 万 5000 台、そして関門橋、これも 1 日当たり通行台数が 3 万 5400 台利用されていると聞いております。そして、1963 年昭和 38 年に 2 月 10 日、5 市が合併しました。そして北九州市が誕生し、1974 年、小倉と八幡が 2 つずつ分かれて 7 区になりました。人口は 100 万人を超えておりましたが、だんだん減ってきております。そして、60 年ぶりに転入超過があったということで、492 名転入超過ということで、市長はとても喜んでおります。そして、もう一ついいことは、北九州市の夜景が日本 3 大夜景の一つに選ばれております。これは連続して選ばれておりまして、2 位が横浜、3 位が長崎というふうになっております。ちょっと自慢話をさせていただきました。

福岡県交通安全母の会の事業内容としましては、もう皆様方と同じだと思ひますが、毎月何かしらの交通安全運動をやっております。春の交通安全、そして子供の交通安全大会、飲酒運転撲滅県民大会、秋の交通安全フェア、そして九州ブロック交通安全ボランティア等の講習会というふうには、大体の予定が入っております。

次は、私たちも婦人会活動が主となっております、八幡西区では生涯学習、それから環境学習 3R 推進活動では北九州市長賞をもらい、令和、4 年度には昨年ですが、県知事賞をいただいております。そして、防災減災学習もしております。日赤奉仕団としては、救急法の講習や災害への備え、そして献血支援金を募っては贈らせていただいております地域福祉、地域コミュニティ支援活動も行っておりまして、地域福祉協力員や民生委員さんとなり、地域の方との声掛けを密にしております。それに交通安全母の会というものが加わっております。そして、社会福祉協議会ではふれあい昼食会を各市民センターで行っております。このように多岐に渡る学習成果を地域活動に生かして、会員の皆さんが元気に参加する、楽しいねと言われる会にしてこれからも継続していきたいと思っております。

そして、交通安全に取り組んだことですが、昨年は 6 月に飲酒運転撲滅に係る通報訓練及びキャンペーン通報の仕方講習などを黒崎で行っております。7 月には 62 回子どもの交通安全大会をひびしんホールで行っております。そこで 3 つの約束が出てきました。「絶対飛び出さない・横断歩道を渡る・自転車に乗る時はヘルメットを着用」ということを子どもたちと一緒に守ることを実行に移しております。

次にいきましょう。今年になりまして、3 月に第 39 回チャリティー芸能祭を行いました。ここでヨシオ君、出番だよということで、観客数 485 名の前で行いました。6 月には交通安全母の会の総会があり、防火クラブ

の連絡協議会の総会研修会もあり、そして今年の8月25日に飲酒運転撲滅県民大会が行われました。

その中で「飲酒運転は絶対しない！させない！許さない！そして見逃さない！」ということを再確認しております。

28日は黒崎ひびしんホールで行われたのですが、このように会場の入り口には3名の方のメッセージが飾られておりました。これをしっかり見て会場へと皆さん足を運ばれました。

会場の入り口にはこういうふうにして3名の方のメッセージが掲載されておりましたけれども、会場の中でも3名の方が壇上から事故にあったことへのメッセージをいただきまして、毎年開催日が8月25日に決まっております。それはどうしてかという、次になります、19年前、海の中道公園で3人のお子さんを亡くした大上かおりさんが、今回初めて人の前でお話をさせていただきますというふうに壇上にお上がりになりました。そして「飲酒運転が犯罪だという意識が希薄だ。いつかこの大会が解散できる。そのような日が来ますように」という、もう本当に胸打たれるお話を聞かせていただきました。ちょっと写真を紹介させていただきたいと思いますが、子供の交通安全大会をホールで行いました時に表彰され、子供たちと一緒に科学の勉強をして、雪の多い地方の信号機との違いはなぜっていうふうなことを私たち大人もどうしてだろうっていうふうな疑問を抱きながら勉強させていただきました。参加した人たち、会員なのですが、こういうふうにして「ふっけいくん」と一緒に集合写真を撮らせていただいております。みんな子供たちと一緒に勉強したことで笑顔になっております。

これは秋の交通安全フェア in 北九州ということで、小倉駅で行われました。これは高校生が主になってされたのですが、自転車にはヘルメットをかぶりましょう。本当にヘルメットを着用している高校生が少ないという事の訴えがありました。これだけののぼり旗と「ふっけいくん」と私たち母の会も参加させていただきました。こういう催しがあるときに参加することで、また改めて交通安全の必要性を感じさせていただいております。そして一番皆さんに言いたかったことは、第39回チャリティー芸能祭ですが、ここの9番目、交通安全よしお君出番だよっていうのをに入れております。この名前のは交通安全ファッションショーをやっておりました。明るい服装で交通安全ということで、こういうふう反射材をつけてやっております。今回は9番目によしおくん出番だよっていうのをに入れております。それはセレモニーのときにはたくさんのお賓の方たちがお座りになっております。4団体特別出演で演じていただきます。それで、この番号のところで見たい、共通認識を持っていただきたいという形でやっております。そして、4団体とは老人クラブですね、そして社会福祉協議会、自治総連合会、八幡西区役所の皆さんがそれぞれの出し物で私たちを楽しませてくれます。そのときに、こういうふう皆さんが舞台に出てアピールをしております。左上は中学生の琴演奏です。毎回幕が上がる前に準備をいたしまして、緞帳が上がりましたら、皆さんが中学生っていうふうな感じで見てくださいます。そして演奏するのは琴演奏です。その中で皆さんと一緒に歌えるような曲も入れてもらっています。

次に9番目のところで、先ののぼり旗電柱が登場いたします。そして一人ずつ前に出て、皆さんに文字を読んでいただきます。そして理解をしていただいて次にのぼり旗が出たときには足を止めて読みましょうというふうに訴えております。

一番下の大きい写真がよしお君です。これを今から皆さんと一緒にちょっと答えていただきたいなと思っております。よしお君、出番だよ。今日はこれをやるために楽しみに参加しております。ではよしお君の「よ」は鷹木澄子さんです。「し」は安楽ゆき恵さん。「お」は中西智恵子さん、進行役は太田康子です。さあ、会場の皆さん、よろしく願いいたします。よしお君はご存じだと思いますが、「よ」は何でしょう。お答えください。

さすがです。広げてみましょう。当たっていましたか？では「し」は何でしょう。全員から答えが返ってくるというのはとてもうれしいです。当たっております。「お」はどうでしょう？ ありがとうございます。

こうすることで、舞台の上からもう本当に年長者の方が芸能祭を楽しみに来られているので、そこでしっかりお話を理解して守っていただこうと思っています。入場するときには全員にこれを渡しております。反射材です。もったら身に着けようということを訴えております。私たちは、交通事故は高齢者の方が半数を超えていますよ。気をつけましょう。小学生では1年生が一番多いですよ。チャリティー祭りで毎回それをやっていますよね。バッグにつけたり、夜になったらもっと見えるところにつけたりと、自分で活用してくださいというふうに訴えております。皆さん方のように街頭に出ているんなことはできてはいないのですが、私たちでやれることをさせていただいております。

ということで、私の発表は終わらせていただきますが、「人間を救うのは人間だ」赤十字奉仕なので、この言葉が一番私は好きです。今後も尊い命を守るため活動を続けます。どうもご清聴ありがとうございました。

大分県生活環境企画課交通安全推進班 主任

吉藤 凌

よろしくお願ひします。大分県生活環境部生活環境企画課交通安全推進班の吉藤と申します。よろしくお願ひします。では、まずこちらをご覧ください。

(動画視聴)

いきなり動画をご覧くださいましたが、いかがでしょうか。これは、私たち大分県が作成したヘルメットの着用を促す啓発動画です。今日は交通ボランティア等ブロック講習会ということで、当県の自転車等利用時のヘルメット着用促進に係る取組及び交通マナーアップに関する取組を紹介しつつ、交通ボランティアの皆様方にヘルメット着用の重要性や横断歩道でのマナーアップを再認識していただいて、今後の活動の参考としていただければと思います。

それでは、早速であります。自転車の安全利用、特に自転車のヘルメット着用について発表させていただきます。まず、大分県の自転車利用時のヘルメット着用率ですが、令和7年6月実施の全国調査では、当県は53.7%と昨年に比べ5.4ポイント上昇し、全国平均の21.2%を大きく上回り、昨年に続き全国で2番目に着用率が高い結果となりました。しかし、この結果について構成比を見てみますと、学生の着用率が72.5%で、一般の方が35.1%と、学生の着用率が2倍以上大人を上回り、大分県の着用率を底上げしてくれているのは学生だということがよくわかります。

また、学生のヘルメット着用に関しては、学校付近ではほぼ100%であり、学校の取り組みの成果を感じています。しかし、学校から遠い地域や通学以外の利用時の着用については、ヘルメットを脱いでハンドルにかけたり、あご紐を外していたり、着用の徹底についてまだまだ取り組まなければならないと感じています。

次に、交通事故状況ですが、令和6年中自転車関連の交通事故は294件発生しており、死者1名、負傷者が291名でした。自転車事故で負傷した方のヘルメット着用率は45.2%であり、この数値からヘルメット非着用時は交通事故率も高いと言えます。その他、死傷者のうち構成比で見ると中高校生が約4割を占め、非常に高い構成比で推移しています。自転車を利用する機会も多い世代でありますので、その分事故に遭う確率が高いのかもしれませんが、やはりこの世代をターゲットに対策を行うことは欠かせません。また、全ての交通事故の発生件数2125件に対し、13.8%が自転車関連の交通事故であり、自転車関連事故件数及び自転車事故件数は減少傾向にある一方、全交通事故に占める構成比は近年増加傾向にあります。

これらの状況を踏まえ、今後の課題としては、一般利用者の着用率の底上げ、学生のヘルメット着用率は高いが、負傷者の構成率も高いという点に着目し、対応する必要があると考えております。

次に、当県の取り組みについてです。結論から申し上げますと、当県のヘルメット着用率上昇のポイントは、令和 3 年の自転車条例の施行と、それと同時に私学を含む県内全ての高校でヘルメット着用が通学許可要件となったこと、この 2 点です。

資料に記載のとおりであります。令和元年に県立学校自転車通学制ヘルメット着用推進モニター事業が始まりました。その後、条例の施行と同時にヘルメットの着用が自転車通学の許可要件となりました。取り組みといたしましては、自転車ヘルメット着用啓発動画の作成、放送地域の交通安全運動の重点に自転車安全利用の推進を設定。

交通安全ポスターコンクールのテーマに自転車安全利用の促進を設定し、自転車関連イベントやツールド九州の会場でブースを出展し、ヘルメットを展示するなど、自転車の安全利用の広報啓発を行いました。これらを行うことで、自転車条例や通学許可要件に加え、広く県民に対し自転車利用時のヘルメット着用が広まったと考えています。

事業制度の具体的な内容ですが、主なもののみご説明します。まずは、高校生の自転車通学制ヘルメット着用推進モニター事業です。主体は大分県教育委員会であり、事業内容としては県立学校の自転車通学生に対しモニターとして募集し、ヘルメットを着用して通学してもらうため、ヘルメットの購入費を上限 5,000 円として補助するものです。令和元年と令和 2 年で実施し、合計 1380 人に対し補助しております。次に、自転車条例と通学許可要件についてです。この 2 つは令和 3 年 4 月から同時期に始めたものであります。自転車条例につきましては、令和 3 年 4 月 1 日に施行され、この時点では通学時のヘルメット着用を努力義務化し、併せて保険の加入についても義務化しました。

条例については、令和 5 年 4 月 1 日に改正し、全ての自転車利用者のヘルメット着用を努力義務化しました。通学許可要件については、県内の中学校の自転車通学生は既にヘルメット着用義務となっていました。県教育委員会が条例の施行に合わせて、県立学校特別支援学校高等部に自転車通学の許可要件とするように通知しました。

その流れを受け、県内の全ての私立高校も同様に許可要件としていただきました。条例の施行と私立高校も含めた全ての中学高校で自転車通学許可要件となったことが大変効果的であったと考えています。その他、啓発動画を作成して当課の YOUTUBE チャンネルに投稿しています。

内容は資料に記載してあります。QR コードから当課の YOUTUBE チャンネルにアクセスしていただきますので、ぜひご覧ください。これらの取組を行う中で、今後行うべき課題といたしましては、着用率の低い大人向けの広報啓発であります。法律でも条例でも、全ての自転車利用時のヘルメットの着用が努力義務となり、現在着用していない人にどのように着用してもらうか、また、着用している人が周りも着用していないなら自分も着用しないという風潮にならないようにするためにも、引き続き頭部を保護する必要性を強く訴えかけながら、ヘルメットの着用の徹底に向けて取り組みたいと思います。次に、交通マナーアップに関する取組についてです。大分県の現状ですが、令和 6 年 8 月に実施された信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の 1 時停止状況全国調査では、同県は 41.5%と、全国平均の 53%を下回る結果となりました。前年の同調査では 31.1%だったので、県としては 14 ポイント上昇したものの、依然として低い数字であります。歩行者の交通事故状況ですが、令和 6 年は発生 271 件、死者 5 名、負傷者 270 名で、うち横断歩道上では 8104 件、1 名の方が亡くなられております。

ただ、今年は残念なことに、8月末時点で8181件、死者9名、負傷者174名と全てにおいて前年の同時期を上回っております。課題といたしましては、先ほども述べたように、歩行者が死亡する交通事故が増加していることと、歩行者の横断歩道にも問題があるということです。県の取り組みといたしましては、新しい交通安全体験講座を開催、これは高齢者の交通事故防止を図ることを目的に、県警や市町村と連携して参加体験型の交通安全教室を実施しております。歩行環境シミュレーターという機材で、横断歩道の正しい渡り方を体験してもらっています。

次に、横断歩道でのマナーアップ啓発動画を作成しました。これは令和4年から令和6年度にかけて、横断歩道でのマナーアップを目的とした動画を作成し、子供から大人までの幅広い年齢の方に楽しんで学んでいただけるショート動画を配信しました。こちらの動画も先程のYOUTUBEに載せておりますので、ぜひ時間のある時にご覧ください。

他にも交通安全ポスターコンクールのテーマに横断歩道でのマナーアップを設定して作品を募集したり、四季の交通安全運動の重点に歩行者の交通事故防止を設定したりするなど、多くの県民に対して交通マナーアップを考えてもらうきっかけを作り、広まるように日々取り組んでおります。

以上で大分県の取り組みの発表を終わりますが、今回は、大分県における自転車ヘルメット着用促進に係る取り組みと交通マナーアップに関する取組をお話しさせていただきました。着実に成果が出ている部分もありますが、まだまだ課題が多いのも事実です。今後も継続して取り組んでいくとともに、その他皆様も注目されているところかと思いますが、改正道路交通法により、令和8年4月1日より自転車違反に対する交通反則通告制度、いわゆる青切符が施行されます。

これについても県警と連携し、交通ルールの周知を様々な媒体を通し、媒体を活用し、広報啓発していきます。本日は、九州各県の交通ボランティアの皆さんがお集まりですので、各県や団体ごとに課題がおりかと存じますが、今回の取組発表が課題解決のヒントとなれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

長崎県交通安全母の会連合会 副会長

松尾 喜美子

皆さん、こんにちは。長崎県の諫早市交通安全母の会連合会協議会の松尾でございます。本日は来年が長崎県開催ということで、県の母の会の会長をはじめ5名で参加させていただきました。よろしくお願いいたします。長崎県諫早市の発表をさせていただきます。諫早市は人口約13万人で、長崎県の中央部に位置し、長崎、島原、西彼杵、各半島の結節部を占め、古くから交通の要衝となっております。現在は4本の国道とJRや島原鉄道が交わるなど、交通アクセスに恵まれたところです。3方を海に囲まれ、山の麓に広がる四季折々の自然豊かなまちです。

続きまして、諫早市の8月末の交通事故の発生状況については、発生件数、負傷者とも若干増加し、死傷者は昨年と同数となっております。亡くなられたお二人は、いずれも高齢者の方で、車に同乗中と歩行中に事故に遭われています。

また、諫早市の子どもの事故は4件で昨年と同数となっておりますが、子どもの死亡事故に当たっては、平成18年以来発生しておりません。

それでは、諫早市の母の会について説明します。会の設立につきましては、昭和56年8月25日で、今年で44年となります。

平成17年に諫早市と周辺の5町が合併し、平成26年までに5町の小学校等が順次加入いたしました。

現在の組織といたしましては、諫早市内の 25 小学校の保護者と母の会活動の経験者でつくる 2 つの団体に構成しています。今年度の会員は 5251 名です。役員は会長と副会長 2 名、理事 1 名、監査 2 名です。予算は諫早市からの補助金 56 万円です。事務局は諫早市役所にあります。主な活動はここにありますように、交通安全運動期間中などにおける街頭指導活動、交通安全運動期間中における啓発活動、交通教室の開催、研修会の開催、通学路の危険箇所などへのストップマーク貼付事業であり、順々に説明いたします。

まず 1 つ目の交通安全運動期間中などにおける街頭指導活動について説明します。全体的には安全運動期間中に実施し、その他にも各小学校が独自に指定した日に実施しています。街頭指導箇所では、市内約 300 カ所です。小学校区母の会が輪番等で実施しております。

市道に必要な横断旗や母の会のタスキは、市の連絡協議会から配布している状況です。次に、交通安全運動期間中の啓発活動ですが、母の会独自では解説を開催しておりませんが、母の会も加入している諫早市交通安全推進協議会会員と共同でキャンペーンを行っている状況です。

キャンペーンの他にも、安全協会などと共同で高齢者宅訪問活動を実施し、昨年は約 25 世帯訪問しました。また、地区の交通安全グランドゴルフ大会では、母の会会員もゲームに参加し、開会式では母の会代表が交通安全宣言を行っています。

交通教室の開催につきましては、市内の保育園や学童クラブなどを訪問し、自作の紙芝居などを使って交通ルールなどを指導しています。その他にも、高齢者が集まる会合に出向いて、交通安全や詐欺被害防止のお話をしています。小学校区では、保護者が参加する交通安全教室を開催している学校もあります。

研修会につきましては、年 2 回実施しております。1 回目は、毎年 6 月ごろ開催する総会の後に子どもの交通事故の特性や街頭指導要領についての講話を警察署から講師を招いて実施しています。特にこの研修につきましては、街頭指導時の注意事項や横断機の使用要領についての講話をしていただき、会員の街頭指導時の事故防止を図っております。

2 回目は、11 月ごろ指導者研修会として実施しており、昨年は交通機動隊を訪問して、交通法規の中でも歩行者保護に関する講話や交通規制についての説明を受けました。また、白バイやパトカーの装備の説明や白バイ走行などを見学しました。指導者研修会では、警察官による交通安全機材を活用した体験型の講習会を開催し、交通機動隊を訪問するなどして内容を変えております。

最後にストップマーク貼付事業になりますが、毎年各小学校区において通学路を点検し、必要枚数を諫早市母の会で集約後、購入して各小学校区へ配布し、危険な場所などに貼付しております。例年全体で 300 枚程度です。また、長崎県の母の会連合会からも配分があることから、全て配布している状況です。以上が活動内容の説明になります。

最後に、今後の課題についてですが、母の会の組織の維持が挙げられます。今は両親とも働いていることもあり、昼間に集まって母の会独自の啓発活動も厳しい状況にあります。課題の改善に向けては小さいことですが、各小学校区母の会会長が出席していた会合を減らす、連絡協議会の役員数を減らすなど、各小学校区母の会の負担を軽減しております。

今後も厳しい状況が予想されますが、母の会活動が継続できるよう皆で協力して努力していこうと思っております。以上をもちまして、諫早市交通安全母の会連絡協議会の発表を終わります。ありがとうございました。

宮崎市地域安全課 主幹

平川 智

皆さん、こんにちは。宮崎県宮崎市地域安全課の平川と申します。宮崎市役所に派遣されている宮崎県警の警察官です。交通安全担当としてこちらへ派遣されていて、2年目となります。昨年この研修に参加してもらいましたが、当初交通指導員さんと一緒に参加させてもらってですね、とても勉強になりましたので、今年も楽しみに来たところでございます。

まさか発表する側になるとは思っていません。皆様のお役に立てればと思ってですね、この宮崎市及びですね、交通指導員さんの活動と宮崎市の啓発活動についてですね、事例を発表させていただこうと思います。よろしく願いいたします。

まずですね、宮崎市の交通指導員会についてご説明させていただきます。宮崎市の交通指導員会はですね、記載のとおり定員 50 名の有償ボランティアとなっております。48 名の方で頑張っていております。市長より委嘱を受けて回答させていただきます。

任期は 2 年ですが、再任を妨げておりません。長い方ではですね、40 年以上稼働されている方もいらっしゃいます。そうですね、当市の規定ではですね、80 歳の定年制を設けておるところでございますが、なかなか後任の方とかもいらっしゃらないので、元気な方は再任用規定を設けております。

また、活動内容についてですね、基本活動と特別活動というのを設けております。委託業務、また行事派遣なども別個認めているところがございます。活動内容についてですね、詳しく説明させていただきます。画面をご覧ください、基本活動ということで実施していただいております。

これ、月 6 回以上の朝の街頭指導を行ってくださいということをお願いしています。では、夏休み期間中を除いてなんですけれども、月 6 回以上の街頭活動をお願いしているところですね。個人差はあるのですが、平日毎日される方、この暑い中でも頑張ってもらってすごく頭が下がる思いでございます。

安全特別活動についてご説明させていただきます。市とか警察と連携します。交通安全キャンペーンに参加を呼びかけるものになっております。特別活動につきましては、各キャンペーンへの参加、その他の講習会等への参加などで特別活動という形をとっております。宮崎市内ですね、北地区、南地区、高岡地区と 3 地区ありまして、それぞれの地区に交通先さんがいらっしゃるの、自分の地区で行われる交通安全キャンペーンに参加してくださいということで、無理のない範囲での参加を依頼しているところがございます。

次に、市に委託している業務内容について説明いたします。迷惑駐車対策業務と言いまして、市内の幹線道路に駐車している車両への指導警告を実施しております。交通指導員さん御存じのとおりですね。警察官に類似した制服を着ております。ここは危ないからどけてくださいねということをやっています。また、駐車監視員の資格とは持っていませんし、警察官ではないので取り締まりを行いませんけれども、悪質なものに関してはですね、市が作成したステッカーを貼付しまして啓発をすることもあります。また、これ長年の啓発活動によってですね、ベテランの方からですね、条例制定時と比べてですね、駐車車両が減っていますよということで聞いていますので、やはりこういう地道な活動が実を結ぶのかなというところで考えているところがございます。行事派遣ですね。地域の祭礼行事とか、宮崎であれば青島太平洋マラソンという有名なマラソンがありますけれども、そちらの交通誘導灯についてですね、主催者の方から要請を受けまして、交通誘導や街頭指導こちらに当たってもらっております。これまでちょっと主催者側からお金をもらって活動しましたが、指導員会側にお金を払ってくださいということで説明しているところがございます。

この前はですね、お祭りの時のものですね。続きまして、視察研修ですね。交通費と手段出して活動の幅

を広げるためにですね、県内各地の自治体を訪問させていただいてですね、活動状況とかいろんな工夫とかを情報交換して日々の活動の糧にしてもらっているところです。

続きまして、宮崎市の広報計画について説明させていただきます。最近ですと、これ二番煎じぐらいになってしまうのですけれども、いろいろなキャラクターとですね、皆様協力されて交通安全活動されていらっしゃるいました。昨年ですね、ここにおります「宮ねこ」というのが市制 100 周年を迎えまして、漫画家の東村アキコ先生が考案されたキャラクターが生まれました。このキャラクターですね、結構使い勝手が良かったのですね、交通安全キャンペーンに使っていいですか？と聞いたらぜひ活かしてくださいということでしたので、このようなキャンペーンでのぼり旗を持ってもらってちょっと注目を引いてもらって、啓発効果を高めていったところでございます。

そしてですね、宮崎県にも小さいながらもプロサッカーリーグがあります。これは県を挙げてですね、ステップアップを応援しているところでございます。ええ、彼らもいろんな活動を通じて知名度を上げたいというのもありましたので、どうですかと声をかけたところですね。快く引き受けていただいてですね、プロサッカーチームが交通安全活動にも協力していただいているところでございます。特に自転車のキャンペーンで来て、男ですけれども、高校生とかという形でよりちょっと注目して見てもらったことがありました。特に同じスポーツをやっている子たちはですね、ちょっと注目を浴びていました。

冒頭でもいろいろありましたけれども、親とかこういう子たちよりは身近な先輩と考えてもらっています。効果があるみたいな形でちょっと照れ笑いをしながらですね、ヘルメットをかぶっていたので驚いていました。そうですね。あと地元実業団野球チーム、自動車学校が持っている野球チームですけども、梅田学園さんが持っているやつ野球部ですね、野球部と連携してキャンペーンをやることがあります。特にこの野球部はですね、交通安全を趣旨として小学生のリトルリーグの大会を開いていろいろやってくれるところですね、ぜひ協力しませんかと言ったら、快く引き受けてくださってですね、特に飲酒運転はダメとかですね、交通安全運動とかののぼりやタスキ、またですね、この横断幕なんかを持ってですね、一緒にキャンペーンをさせていただきます。

そして宮崎県の補助事業を受けてですね、高齢者交通安全運転見える化事業っていうことを実施しているのですが、セフモという AI を搭載した車両を利用して、実際の道路をちょっと運転していただいて、運転の様子を主観的に見てもらう状況になっています。

それとですね、より身近な場所でどういうところに注意しなくてはいけないということですね。高齢者の方が認識していただいて事故の減少に努めていたところですね。参加者からもこれはとてもいい取り組みだったというところでまたあればどんどん参加したいというような印象的な意見も見受けられましたので、このようなやり方でどんどん継続していこうかなというところを考えているところでございます。

そして、及ばないですけどもスクエアード・ストレイト、いわゆるスタントマンによる自転車事故再現がありまして、その動画を 3 分ほどにまとめまして、市の公式 YOUTUBE にアップロードしております。限定公開をしている関係で、検索しても出てこないというところがありますので、お手すきの際にこの QR コードを読み込んでいただいて、自転車事故の再現映像とかを見ていただくことでより安全に利用していただくこと、またヘルメット着用の重要性、こちらを呼びかけていっているところでございます。

早口で申し訳なかったのですが、宮崎市としては言いようのような活動をしておりますので、今後ともよろしく願います。御清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

国立大学法人 新潟大学人文社会科学系 工学部工学科

人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修

村山 敏夫

村山先生:皆様活動事例発表をお疲れ様でした。これからの意見交換会、手を挙げていろいろお話をしていることとか、思いのたけを述べていただければと思います。今日はですね、私からは交通安全ボランティアの育成と活性化、そして奥山先生から教育が中心になった感じでしたが、子どもの交通事故防止の話を見せていただきました。いかがでしょうか。どうぞよろしくお願いします。

●:3 県の方に質問をしたいのですが、長崎県諫早市の方と大分県、それから沖縄ですね。もう簡単でいいですので、お答えいただけたらと思います。まず、諫早市の交通安全の発表していただきましたが、高齢者の方への訪問の場面が出てきましたけど、これはどのような形で高齢者の方への声かけとか、またはグッズなどを渡しているのでしょうかってことと、あと大分の方は市役所の方が発表されましたが、大分県には交通安全の団体自体がないのでしょうかってことと、あと沖縄の方も私たち串木野と同じで交通安全お守りを作っていますということでしたけど、どのようなお守りでしょうか？簡単でいいですのでよろしくお願いいたします。

●:高齢者訪問活動でよろしいですかね？諫早警察署とですね、安全協会、あと市役所とその市役所の方の事務局の方に母の会も入っています。それと交通ボランティアの方が各地区にはいらっしやるのですが、その方たちと一緒に、各町でボランティアの方、安全協会の会員さんの地区の方がお年寄りの高齢者の方がいらっしやるってことを何件かピックアップして、ちょっとこ警察とかでお話し合いをして、一緒に交通安全を呼びかけようということ活動しているのですけども、なかなかやっぱりお年寄りの方もいらっしやるのですけど、ゲートボールに行くとか、病院に行くとかですね、なかなかもう都合がつかないですが、そこら辺をなんとか本人さんに地区の方からお願いしてもらってからですね、ずっと毎年地区を変えてから回っている状況です。

●:大分県です。大分県に母の会はありますが、この事例発表については、去年も大分県から県の取り組みを発表しており、私がかつて発表するものだと思っていたので、母の会にお願いしていませんでした。今日母の会の方にも 2 名来ていただいていますので、一応会はあります。

●:沖縄県交通安全のお守りですけれども、各市町村でそれぞれ違いますが、各市町村主体でやっているのいろいろなものがありまして、エコラフトでランドセルを作ってそれに捺しを入れて、あとはそれぞれあると思いますが、どういうものがあるかはそれぞれ市町村に。今ランドセルにもものをつけちゃいけないという風潮があるので、あげてもつけている子が少ないですってという意見もあって、作ってもしょうがないじゃないかという意見もあるけれども、あげた時に子供たちの喜ぶ顔がほんと可愛いので、なくさないで続けていこうということになっています。

村山先生:ありがとうございます。今、全体の 3 件のご質問をいただき、なんでその質問されたのですか？それぞれの質問を、何かこう気になったその共通の何かがあったのかもしれませんけど。

●:今言った 3 点がちょっと気になったので。特にお守りは私たちも作っているのにならぬ。大分でも女性の会はありますよとかですね。長崎県諫早市の高齢者の方への声かけがどのような形で声をかけて、

高齢者の方は運転もしないのにどんな形で声掛けしているのかなと思って、ちょっと興味関心があったので。
村山先生: そういった現場視点の問いて言うか疑問というのはすごく重要だなと思っていますので、今みたいな身の回りのちょっとしたことをここで共有するのって大切だなと思いました。ありがとうございます。そういった視点でも構いませんので、何かご質問あれば。

●: 先程の諫早市ですけども、高齢者の方のところに訪問した時に、一人ずつとお話して、「まず夜は外出されますか？車には乗っておられますか」とかいうことを聞きます。車も運転しないとかで、もう夜はあぶないからって言われます。夜はもう暗いから、ほんと最小限の時だけはもうしか出られないですよって言って。でも何かで、例えば近所に不幸があったりとかして、お通夜とか行きますよね。そういう時にもこういう反射材があるので、つけていったらいいですよってということで、結構車が通っているところに行く時はですね、つけていってくださいとか。あと車を運転しなくても、自分はちゃんと歩いていても車がよそ見していてぶつかってきたら大変だから、「車がちゃんとよけるから、自分はどこを歩いても大丈夫さ」っていうので、自分も注意して歩くようにしましょうねとかですね。

あと、今オレオレ詐欺が流行っているの、そのオレオレ詐欺とかも、ちょっと変な人から電話がかかってきたら、もうすぐ切るとかですね、そういうして詐欺に遭わないようにとかですね。で、一応今長崎は前川清さんが特殊詐欺の広報大使になっているのですね。だからその人がいつもテレビに出て言っているでしょ。だから覚えておいて変な声だったらすぐ切るとかですね。そういうふうにもうその人に合わせてですね、ずっとお話しています。反射材とかが結構中に入れて持っていますよね。それを腕に付けてねとか、あとバックにつけてねって言って、杖につけてねと言いながらつけてあげたりとかしています。

村山先生: ありがとうございます。今日、皆さんのその事例の話聞いていて思ったのが、母の会の皆さんの活動が、交通だけというよりも、交通も含めて地域を守るという視点だなと。だからこそ、いろんなことに関わりながら、交通も今みたいな詐欺に遭わないとか、全て地域を守るという共通のところだなってすごく勉強になりました。だから担い手、本当に大切ですよ。皆さんの活動を一人や二人でできる話じゃなく大勢の人たち、なんなら地域全部が関わらなきゃいけないなって、本当に強くそう思いました。そういった視点で何かこう熱い思いを持っている方いますか。ありがとうございます。

●: 鹿児島県から昨年も参加させていただきました。私たちのところは「プラスワン運動」というのをしております。特に高齢者には必要なことかなと思いますので、鹿児島では「ころばん体操」、転ばないように市役所の方の福祉の方でされているのと、脳トレっていうのに皆さんが集まれる曜日を決めて、そこに伺いまして、私の方の交通安全ではプラスワンですので、右見て左見て、もう一回右見たらもう一回念を入れて左を見て、横断歩道を真ん中のところまで行ったら、渡りきらないうちにもう一回確認をするという指導を行っております。

村山先生: ありがとうございます。健康の話をしてもらいましたね。だけど、健康が結果、交通安全の抑止につながるって言いますから、これすごく馬鹿にできないですよ。だからこそ、私が関わっている地域なんていうのは、お父さん方本当に出てきません。健康の事、馬鹿にしていますね。「健康体操？仕事で体動かしているんだ」なんて言って、そういう話じゃないわけですよ。だから、そういったたくさんの視点、あるいは視座高く見られるのか、ちょっと教えてあげてください。いろんな視点で伝えていただければなと思います。いかがですか。

●: 私は婦人会 30 年です。地域で立ち上げて、皆さんで力を合わせて、できる時、できる人ができることをやろうということで、できるならば福祉協力員となって、お年寄りや一人暮らしの方に声をかけている活動も続

けております。そしてもう年になったから、もう私役に立たないからそういうことは言わない。元気が出てきたらみんなが嬉しい、そして健康に気をつけていこうということを目標に、これからは楽しい活動をいっぱい入れてやらなきゃ、勉強しなきゃということも必要ですけど、楽しいっていうことで続けられるっていうことを目標にやっております。

■講評

このまま私が事例発表会を踏まえた上での講評をさせていただきます。今日ずっと皆さんの話を聞いたりして、やっぱり大切なのは奥山先生のことも言われたとこともすごく重要だなと思ったことは教育って大切だなと思いました。うちの学生で福島県の学生がいますけども、「私、絶対横断歩道は青じゃないと渡らないです」って言います。言っちゃあれですけど、周りに車が来なかったら赤だろうが行きがちですけど、その学生は絶対に青じゃないと渡らない。なんで？と聞いたら、赤信号を渡ると鬼が出るからですって言われました。これ何の話かと思ったら、小さい時お母さんだかおばあちゃんだか、そう言われていたらしいです。

何かになぞらえてなのかもしれませんが、それが刷り込まれて赤は絶対渡りませんね。長野県の話ですけども、長野県は信号のない横断歩道、人が渡りそうな時は止まる率が高いです。うちは新潟県です。長野県は横断歩道をしっかり止まる県。隣の新潟は全く止まりません。いつも突き抜けちゃいますね。長野県の学生が新潟大学に来て、「なんで新潟ってこんなに止まらないんですか」って言われました。

私がこの前長野県に行ったら、小学生が横断歩道で立って待っていました。信号はないですけど止まりました。そして小学生が渡りきったら何していたと思います？ありがとうございますって。新潟にはなかなかそういう光景がないですね。これも習慣ですよ。だからありがとうございますと言われると運転者も止まりたくなくなるっていう、こういう心理が働くということですよ。これが教育というよりも先程言った習慣化、要するにその地域の文化、こういう話になってくると、1年や2年、5年や6年の取組でそんな簡単に人は変わりません。しっかり世代超えた繋げ方がやっぱり文化となって、それが命を守るって話になってくると思うと、やはり皆さんお一人お一人の今日事例発表していただいた取組が大切になるなと改めて感じました。

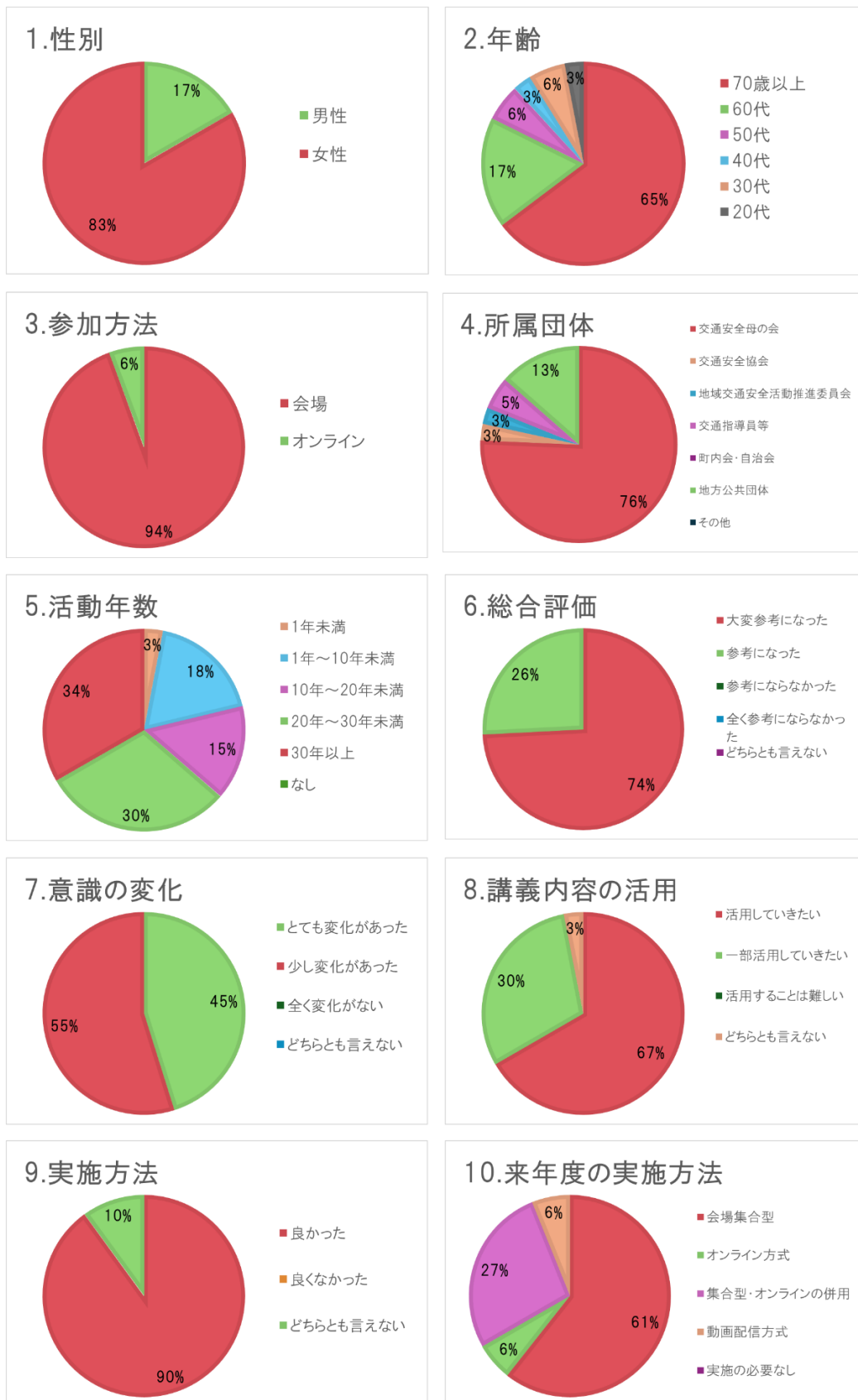
それと、そんな話をしていくとやっぱり大切なのは、今日皆さんの発表を聞いて思ったことですけども連携って重要だなって思いました。市民の一致団結も大切ですけど、行政との連携あるいは自治体と県警だとかある企業も出てきましたね。プロスポーツのところも出てきました。何か一つテーマを立てて、色んな分野が関わるという仕組みづくり、仕組みだけじゃなくて仕掛けづくり、これが大切だなという風に思いました。

今日、私ずっとこの先程出ていたよしおくんって一体何の話なのか、どこからかよしおくんが出てくるのかなと思っていました。そしたらあー「よ」「し」「お」そういうことかって。それで何かワクワクするあの感覚、こういうことが仕掛けの一つになるかと思ったら、皆さんが考えているそういうちょっとしたアイデア、ちょっとした遊び心。これってやっぱり大切です。ここで示させていただきますが、皆さんがやってきていること、考えていること、これはもう一度言いますが、間違っていないってことです。お一人お一人が考えていることは間違っていない。それをどういうふうに次に繋げていくのか、隣近所の人たちに理解してもらうのか、これを今度は皆さんと考え、ちょっとしたことを言葉にする。こんなこと言うと恥ずかしいな、これでいいのかという、間違っていないかな。そんなことを躊躇するのではなくて、ちょっとしたことを相談できる仲間がいる。これがやっぱり大切だなと思いましたね。今年、私はこの九州ブロックからスタートして、また北海道とか行ってきます。今日の皆さんの取組、あるいは今日の皆さんの雰囲気をお伝えさせていただきたいと思います。また、いつか全国皆さんで一つになれるといいなと思います。そしていつかこの皆さんが取り組んでいる、この取組がな

くなる、これが本当に最終目標かもしれませんね。

はい。今日はとてもいい時間を過ごさせていただきました。九州佐賀まだまだ暑いですね。お体気をつけてそれぞれ頑張ってください。私からの講評を踏まえて挨拶を終わらせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

3.アンケート集計結果



問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・ボランティアに若者を取り込む方法
- ・村山先生の講演をまた聞きたい。心理学的でおもしろかったし、ためになった
- ・海の中道事故の大上かおりさんの講演、飲酒運転事故の加害者の方のその後
- ・外国人への交通ルール順守指導
- ・高齢者の免許返納について
- ・高齢者への講義及声かけなど
- ・自転車マナー、法令について(自転車は車の3中間である)
- ・他の講師の方は知らないけど、今回の方々の話をまた聞きたいと思う
- ・現状通りでよいです
- ・自転車でのヘルメット着用、大分県の発表、良かったです。他の県もあれば講演でも、お聞きしたいです
- ・団体への加入者がへりだした
- ・コロナ前の様に腹話術や、吹奏楽の演奏等も取り入れて欲しい。講話ばかりではない
- ・外国人の交通事故が多いのでそれに対する講演等をお聞かせしてほしい
- ・外国人就労者の交通マナーの取り組みについて
- ・沖縄ではアジア諸国の若者が多く、殆ど自転車通勤している現状 彼らにも交通ルールを徹底して教えてもらいたいと思います
- ・ボランティアの人員の維持への工夫。取組みの工夫
- ・自転車の違反や事故時の過失判例、危険性帯有による行政処分について

問12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・高齢者が増えていく中免許証の返納の進め方
- ・学識者からの話を聞いて実施の中での安全性の考え取り組んでいく
- ・当番県における活動拠点(実施などを訪問)
- ・コロナ影響で中止していた指導者講習を昨年度再開したところ大変有意義な講習会となった。中止していた期間に変更改正された道路交通法などを学び学習できました
- ・大分県では、年に一度、交通指導員を集めて研修会を実施しています
- ・たくさんのボランティアをしていますので生かさせていただきます
- ・シニアカーやエアバックの実体験等を体験型講習会等があれば良いと思う
- ・幼児、高齢者の為の交通安全指導の為に腹話術等の研修を受けたい
- ・毎回同じ団体が参加するのではなく各種団体に呼びかけて広報啓発を行ってほしい

問13.その他、ご意見ご要望ご感想など

- ・本日の講義でもありましたが九州参加者が全員一堂に集ってディスカッション・グループワークなどできるようにしていただけたらもっと良い講習会になると思う
- ・有意義なお話に参加してよかったです
- ・村山先生の講演とてもよかったです
- ・午前中空調の冷房が効きすぎていたが、午後から少し上げてもらってよかったです

- ・毎年実施されている様ですが私は今回初参加 大変参考になりました
- ・各県交通安全母の会の活動は入れ心を込めてすばらしいな～と感じています。地域全体を守っていると嬉しく思います
- ・村山先生・奥山先生ユーモアを交えてたいへんたのしく以後部会お話を聴かせていただきました。印象に残る内容で参加してよかった
- ・村山先生の講演資料があればよかったです
- ・他県も会員の高齢化・会員不足が今後の課題となっています。何か解決方法はないか
- ・いろいろな立場からの意見があり参考になりました。各県とも特徴ある発表で今後参考にして実践していきたいと思います。交通安全も人と人との繋がりが必要と分かりました
- ・村山先生の話が大変役に立ちました
- ・各県の活動はすばらしい。同じ目的を持った皆さんと増々地域活動を広めて行きたいです。大変参考になりました。ありがとうございました
- ・となりの県だから朝早くから来たら来られるという考えは良くないのでは。家から駅まで行くのに早朝から家を出るのはむずかしい。(老人が分きざみで動くのは大変)前泊にする。車で乗り合わせて参加するなら車一台分のガソリン代でも出してほしい
- ・私たちの活動に若い人をまきこむ
- ・白線を引く事例がありました。警察との関連(国道・県道・市道の違いはあるでしょうけど
- ・活動内容はだいたい同じだと思うので問題点があった時等聞きたい
- ・お二人の講師のお話を今後役に立てます。自分がまず楽しく参加できるよう健康に気を付けます。ありがとうございました。各県の資料もあり、よかったです
- ・参加する為に当日来られる人は当日となっていますが6時半のバスに乗って行くのに何時に起きるのか、高齢化しているのに、適してないと思います。今回前泊しましたが、補助できないと言われました。交通機関も利用するのも不便があります。足が丈夫でない方もいて、乗り換えも、時間がかかります。車での参加も交通費を少しでも出してもらえると助かります
- ・参加者の旅費について。長崎⇄佐賀 新幹線利用を認めて欲しいです。長崎といっても長崎駅(諫早駅)まで片道2時間弱かかる方も参加しています。また、移動にも若い方と違い、時間がかかります。その地域の事情をふまえて来年度は考慮して欲しいです。今回はボランティアの方は自家用車で自費参加しています
- ・時間オーバーですみません
- ・お弁当の手配など出来たら良いと思います
- ・どこも同じで男性達は地域サービスにも参加しないですね。沖縄も同じです。各地ともそれぞれのやり方で交通安全運動をやり続けているのでそのまま連続するとよい
- ・毎年いいお話を聞かせていただきありがとうございます。今後も継続をお願いします

4.写真



来賓挨拶 佐賀県



講演 村山先生



講演 奥山先生



活動事例発表の様子



活動事例発表の様子



意見交換会